



Walk with Children

めぐろ



せいび

215 号
2025 年 9 月

サレジアン国際学園目黒星美小学校

「明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。

その日の苦勞は、その日だけで十分である。

(マタイ 6 章 34 節)

校長 シスター小島 理恵

久しぶりに子ども達の元気のよい挨拶が校舎内に戻ってきました。一か月以上もの長い休みの間、神様のお恵みによって、子どもたちがすべての危険から守られ、楽しい日々を過ごせますようにと、心からの祈りを捧げてまいりました。ご家族の皆様との時間は、子ども達にとって喜びであり思い出に残るものとなります。代わる代わる語ってくれる子ども達のお土産話を楽しみにしています。

さて、いよいよ前期後半が始まりました。7月末、私たち全教員は創立者ドン・ボスコが望んでいた「喜びのある学校」を目指し、中心的な課題について具体的な取り組みや実践を分かち合ったり、本校の特色として大事にしていくものは何か、また、子ども達を前にして私たちがどのような生き方をしていけばよいのかを話し合ったりしました。毎年この時期に行う研修は、ドン・ボスコの教育を、“今、ここで”実践する本校の教員として、初心に戻り、お互いの親睦を深め、思いや考えを分かち合うことによって、さらに教員としての資質を高めるための貴重な時間となっています。

前期後半、また新たな心で子ども達と向き合い、“喜びのある学校”を日々味わいつつ過ごして参りたいと思います。今後とも、どうぞ、よろしくお願い致します。

感謝の日

特別活動部

今年度も9月30日の朝礼時に“感謝の日の集い”を行います。感謝の日は、日々私たちを見守ってくださっているマリア様へ、感謝の心を持って過ごせるよう、マリア様のお祝い日（8日）である9月に行われるようになりました。日頃、学校や全校児童のために心を配ってくださる校長先生をはじめ、先生方、事務職員の方々、ご家族など身の回りでお世話になっている方々や、普段なかなか直接思いを伝えられない方々への感謝の気持ちを高める日になることを願って行います。

ぜひ、ご家庭でも児童と感謝の日について共有をしながら「ありがとう」の気持ちを大切にできる1日にしていただけたら幸いです。

合宿の報告

5月から8月までの間にそれぞれの学年で様々な合宿に参加しました。
3年生は、菅平高原学校、4年生は、志賀高原学校、5年生は、尾瀬高原学校、6年生は美ら島学校で自然と触れ合い、五感を研ぎ澄ませ豊かな体験をしてきました。

菅平高原学校 楽しかった合しゅく

3年

私が心にのこったことは、ピザ作りです。なぜなら、自分たちが作ったピザなんて、あまり食べたことがないからです。自分たちがのせる食ざいをきめる時、みんながゆずりあってなにをのせるかをきめていたところがすごいな、さすがだなと思いました。そして、おいしい、おいしいピザができていました。

私はこの合しゅくはかみ様に見守られてすごすごができたと思いました。なぜならずっと晴れていて、雨もふらず、プールではけがをせずによびに帰って来られたからです。

合しゅくでせい長したすがたを学校でも見せていけるとよいと思います。そのためにがんばります。こんなに楽しい合しゅくができたのは、やさしい友だち、みんなのことを思う先生方のおかげです。この合しゅくは本当によかったと思います。4年生もこのような合しゅくでありますようにかみ様みまもってください。



志賀高原学校 合宿の思い出

4年

わたしは、今回の合宿でみんなで協力することが大切だと学び、5分前行動など今までできなかったことができ、成長したと思いました。

なぜなら、わたしは、ハイキングやオリエンテーリング、各部屋で、みんなの優しい思いやりのある声がけや時間の声かけがあったからです。このような優しい声がけやアドバイスがどれだけ大事なのか知りました。

心を落ち着けて五感を働かせることで、神様がどのくらいすばらしく美しい自然をおつくりになったのかを感じることもできました。

これからも、素直に人の話を受けとめ、困っている人に手をさしのべられる、つまり、だれにでも優しく自分のできることを一生けん命できる人になりたいです。

尾瀬高原学校 尾瀬ハイキング

5年

今回の学習では、尾瀬の片品村へ行きました。行く前に先生から「片品村は三つの国立公園に含まれている」と聞きました。その場所は素晴らしい自然があるとわかり、合宿をとっても楽しみにしていました。

二日目には、尾瀬ハイキングをしました。11キロ歩くと聞き、最初は、そこまで辛くはないなと思いました。しかし、半分まで来たところからもう疲れてきてしまい、つらさが出てきました。そのつらさを感じていた時に、友達に言われた「がんばれ」という声かけや、ゲンゴロウ、オコジョ、アカハライモリを見つけた時の喜び、ミズバショウの美しさなどに心をいやされたことなどに後押しされ、無事に歩ききることができました。その時、「やはり自分は他の人たちや物などに支えられて生きているんだ。」と実感しました。

協力はたくさんの「力」の文字が入っています。この合宿でもたくさんの力を合わせるがありました。これからみんなで力を合わせていきたいです。



美ら島学校 未来に向かってできること

6年

僕は、沖縄戦は当時の人的一生治すことのできない傷を負わせた勝手なことだと思います。社会の授業や沖縄合宿中に色々な方の体験を聞きましたが、どの人も自分の体験を思い出すだけでも辛そうで、泣いていた方もいたからです。

当時の教育は教科書も戦争に関連付けて書いてありました。「正義の戦争」として、少しでも役に立ちたいと思ったのではないかと思います。日本が勝っているという情報しかなくて、戦場に行く人も日本が強いのだろうと勘違いしていました。しかし、考えていたよりも戦場は辛くてとてもショックが大きかったらしいです。体験者のおばあさんは、真実を知らないことが不幸を招くと言っていました。

あとになって言えることですが、教科書を作っていた人たちは、子どもたちに悲しみを与えないようにしていたのかなと思いました。だけど、嘘をついてはいけないし…やはり難しいなと思いました。このような複雑な状況が平和ではない状況を作ったのだと思いました。僕が思う平和は、みんなが自分の命も、みんなの命も大切にしてくれることだと思います。

森の学校

5年 女子

8月末に行われた、5年生女子の「森の学校」では、様々な出会いを通して、神様から大切な存在として愛されている自分を見つめ、友だちとの関わりをさらに深める時となりました。これから、最高学年に向かう子どもたちにとって、実り多い4日間でした。

サマースクール

5年 男子

一生懸命学習に励んだ時間だけでなく、北横岳にみんなで登ったり野球をしたりしたことでお互いの理解が深まり、この4日間で子ども達の顔つきが凛々しくなりました。自分自身と向き合い、今自分にできることに向かって努力するためにどうしたら良いのか一人ひとりがよく考える姿が見られ、大きく成長した子ども達の今後の活躍が楽しみです。

